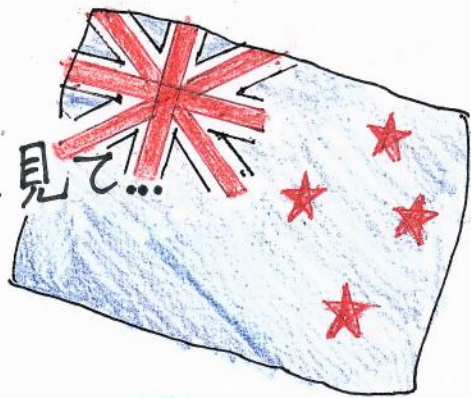




# New Zealand の畜産を見て...



～ 日本に伝えたいこと～



## 男女平等

「男性ができることは、女性でもできる」

これはNZで当たり前になっている考え方です。そのため畜産現場でも皆、生き生きとして働いていました。

「畜産は男の仕事」という考えは古いのです。女性はカ仕事を苦手としますが、その分を知識や道具を使って補えます。逆に、母性をもつ牛に接したりマルチタスク能力を活用するなど女性にしかできないこともあります。女だからといって畜産業を諦める必要はありません!!



## 始めやすい環境

「シェアミルクキング制度」

これは、NZで新規就農するまでのキャリアパスです。この制度は、オーナーの元で働き徐々に昇給し、土地を買えるお金が貯まるとオーナーになります。

また、「シェアミルク」というオーナーと収入・経費を一定の割合でシェアする段階があり、現場での経理や経営者としての経験を積みながらお金を貯めたりすることが特徴です。日本にもこのような新規就農までの明確な道筋を提示し、畜産を始めやすい環境を整える必要があります!

## 楽しい! 畜産を!!

NZの農家の方々は、楽しそうに仕事をしていました。そんな方々のモチベーションは...

「酪農を仕事として促していない。1つのライフスタイルだ」と思っているのが仕事の感覚ではない。実は、実際に従事している人が仕事を楽しく、好きになることが一番大事なのです。

実現できれば...

周りに良いイメージが伝わる!?

そして、畜産業を目指す人が増える!



意外と知らないかも!? 畜産業の魅力♡

畜産は大変な仕事だと懸念されやすいです。しかし、すごく魅力的な仕事でもあります。NZの人が言っていた通り、朝日と共に起きて、牛と共に仕事をする。このライフスタイルが素敵です。更に、畜産は自分の個性を表せる職業だと思います。生産能力の向上を目指したり、放牧を行い、牛本来の姿を重要視したり、やる人次第で様々な形の畜産があります。こんな素晴らしい畜産業に興味を持ってくれると嬉しいです!

尾崎もも